



2023.8.30～9.1 中学・高等学校 6年修養会

# 惠泉

題字・河井道  
2023年度 第3号  
2023年10月25日発行

二〇二三年夏、コロナ禍も明け、五年ぶりにオーストラリアモートンベイカレッジへの短期留学を再開することができました。参加生徒は四年生と五年生の二〇名で、引率は共に海外引率経験豊かな服部伸江先生と平川規子先生です。現地からその都度研修報告をメールで送ってもらいましたが、その中でとても嬉しいものがありました。

モートンベイカレッジで過ごす最終日、フェアウェルパーティーの際に、感謝のスピーチ、惠泉の学校紹介、参加生徒全員による歌やダンス披露等、引率教員からのプログラム案に、皆が率先して役割を担ってくれたそうです。現地で多くの方々のお支えを実感した生徒たちは、この短い期間にも大きな変化を遂げ、日本にいた時の、どこか他人事としてやり過ごす雰囲気は全くなくなっていったとのこと。そして、ホストしてくださったご家庭も、自分の受け入れた生徒は最高だ、と話してくださいました。二週間の最後の振り返りでは、お風呂に短時間に入れるようになり、使用後に自分の髪の毛を拾う習慣があったこと。間違ふことを恐れずに自分の思いを英語で伝えようと、自分から積極的に話しかけるようになったこと。外国で学ぶことを真剣に考え始め、人に感謝できるようになったこと。等々、この短期留学中に撒かれ

た種が、確実に芽吹いたことを実感させられたとの報告でした。心の柔らかな若い時代に、日常生活から離れて異文化に触れる経験は、その人の中に沢山の貴重な気づきを与えてくれるものです。

私自身も、初めて「近くて遠い国」韓国を大学生交流で訪問した際、大学で学ぶ使命について真剣に語る韓国人学生や、昔覚えた日本語で歓迎してくれた祖父母世代の態度に、歴史的障壁を乗り越えて互いを理解し、受け入れようとする姿勢を学びました。それ以来韓国は、私に

とつて親しい隣国になりました。その後、惠泉の英語教師となり、ソウルオリンピックのテーマ曲を生徒達と英語で歌ったことも、懐かしい思い出です。新任時代に、アメリカのサンディエゴでホームステイした際は、家事全般への日米の夫婦の関わり方の違いや、教会生活の様々な形に驚きました。バンドによる賛美を交えた青年達の礼拝、お洒落な服に身を包んだシニア層の集う礼拝等、日曜日に行くもの集会有り、その後には和やかなお茶のひと時がありました。それは堅苦しい律法主義とは無

## 「平和構築始めの一步」

中学・高等学校校長 本山 早苗

縁の、人生を豊かに楽しむ喜びと感謝に満ちた信仰生活でした。惠泉では、自身が留学しなくても、毎年二名の留学生を迎え、共に一〇か月ほど過ごします。この歴史も三〇年以上続くもので、今年度はニュージーランドと韓国からの留学生が惠泉生の自宅にお世話になっていきます。留学生が日本の文化や習慣を体験するだけでなく、周囲の惠泉生も留学生から教えられることが数多くあります。二人が登校して間もない四月、二〇年ほどの留学生がホストシスターの結婚披露宴のために来日し、恵

分同様に他者を尊敬する姿勢につながりました。それが惠泉女学園の国際、平和志向の基となっています。全ての人格が対等に尊重されてこそ、真の平和構築への歩みが始まるのです。現在もロシアとウクライナの戦争が続く、世界が平和実現への途を探しあぐねています。長引く戦争という負のスパイラルに世界中が喘いでいます。核兵器による戦争抑止が、人類の平安を脅かしている現実を知りながらも、私達は打つ手無く沈黙するばかりで良いのでしょうか。今日本は唯一の被爆国として、果たすべき役割を問われているように思います。

国際交流活動の究極の目的は、真の平和構築です。日本とは違った文化や風習に触れ、その違いを理解しようとする姿勢を持つこと。海外から逆に日本を眺める視点を持つことで、日本の社会課題も見えてくるでしょう。さらに、地球市民の意識を持つてその課題を認識し、解決策を探り求めていくこと。そのために私達自身の役割を意識した学びを続けていかねばなりません。

今年の夏は、地球温暖化の深刻度を思い知らされる酷暑が続きました。エネルギー問題や食糧問題、他のSDGsの達成期限も迫ってきています。まず惠泉生から、平和構築の始めの一步を踏み出して欲しいです。